



## 肝機能の数値が気になったら？ ～消化器内科で知る「今の肝臓の状態」～

【消化器内科 玉井主任医長】



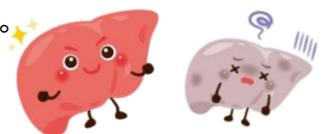
健康診断で「肝機能異常」と指摘されたことはありませんか？ 特に血液検査で ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)値が 30 以上だった場合、肝臓に何らかの異常がある可能性があります。なぜ ALT が高いと問題なのでしょう？ それは、ALT の数値が高い＝「肝臓の細胞が壊れている」ことを意味するからです。

肝臓は 1～1.5 kg もある巨大な臓器であり、健康な肝臓の 70% を切除しても、ほぼ 1 年で元に戻るほど、余裕のある臓器です。だから、少くとも ALT が高くても(肝臓が壊れても)、多くの場合は生活に支障はありません。しかし、いくら余裕のある臓器とはいえ、長年にわたって肝臓が壊れ続けた場合、肝臓の機能が生きていくのに足りなくなります。

問題なのは、“長年にわたって壊れた肝臓は、やすやすとは元に戻らない”ということです。さらに、壊れて痛んだ肝臓は、肝臓がんができやすくなります。

「ただの食べ過ぎ・飲み過ぎ」とは限りません。肝機能異常の多くは、肥満や飲酒・糖尿病に伴う「脂肪肝」ですが、中には以下のような予期せぬ原因が隠れていることもあります。

- ◆肝炎ウイルスの感染(自覚がなくても感染していることがあります)
- ◆生まれつき肝臓が悪くなる体質(大人になってから発症します)



下の「奈良宣言2023」は、日本肝臓学会が提唱する肝疾患の早期発見と治療を促進するための全国的な取り組みです。健診で ALT 値が 30 を超えていた場合は、当院消化器内科を受診してください。原因を調べ、今後の見通しをご説明し、適切な治療を行います。





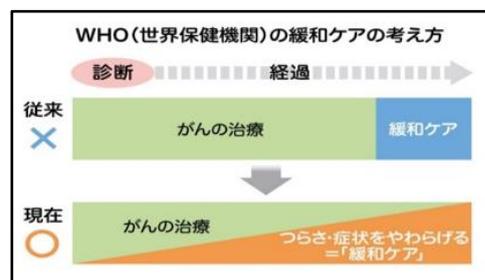
# 緩和ケアってなあに？



【看護部 緩和ケア認定看護師 阿部副主任看護師】

『緩和ケア』とは、病気による身体的・精神的な苦痛を和らげ、患者さんとそのご家族の生活の質(QOL)を向上させるためのケアです。

終末期医療と思われがちですが、がんの治療ができなくなってから始めるものではありません。なぜなら、身体や心などのつらさが大きいと、体力の消耗や気持ちの浮き沈みなどにより、がんの治療を続けることが難しくなります。そのため、がんと診断されたときから緩和ケアを並行して行いながら治療を継続していくことが大切です。また、早い段階から緩和ケアを受けた場合、生活の質(QOL)が改善され、予後にも良い影響があるという調査報告もあります。



日本緩和医療学会パンフレット  
「これからがん治療を受ける方へ がんとわかったときからはじまる緩和ケア」より

気持ちを誰かに伝えた時から、よりよい治療が始まります。どんな些細な事でもかまいません。まずは、その声をお聞かせください。

当院では1月から緩和ケア内科が開設されました。医師をはじめとした緩和ケアチーム(多職種チーム)で患者さまとご家族の問題が解決できるように一緒に考えていきたいと思ひます。



<緩和ケアチーム>



『いつでも、あなたらしく』  
あなたの大切な時間を「あなたらしく」  
過ごすことができるよう支援させていただきます

## JR 仙台病院 105 周年記念式典を開催しました



1月31日にメトロポリタン仙台におきまして「105周年記念式典」を開催いたしました。当日は来賓や病院関係者を含め約170名の方にご出席いただきました。

地域の皆さま、関係機関の皆さまに支えられ、105年を迎えることが出来ました。これからも地域住民の皆さまや医療機関に信頼される病院を目指し、職員一同精進してまいります。

今後ともご支援ご理解を賜りますようお願い申し上げます。